

第11講 ヨーロッパ諸国の絶対王政の展開

- ① 16～17世紀の王家の組み合わせとして、正しいモノを1つ選びなさい。
①スペイン（ヴァロワ家） ②フランス（ロマンノフ家） ③ロシア（ブルボン家） ④イギリス（テューダー家）
- ② 16世紀半ばのハプスブルク家の支配領域に含まれない地域を、次の①～④のうちから1つ選べ。
①スペイン ②オーストリア ③ネーデルラント ④デンマーク ⑤バーメン
- ③ 誤っている部分を2カ所正しく直しなさい。
オランダ独立戦争中、南部10州が団結して独立に成功、ユトレヒト条約で国際的に承認された。
- ④ イギリス絶対王政時代の国王とその業績の組み合わせとして、正しいモノを1つ選べ。
①メアリ1世 — イギリス国教会の復活 ②ヘンリ7世 — 国王至上法の発布
③エリザベス1世 — 東インド会社の設立 ④ヘンリ8世 — 統一法の発布
- ⑤ フランスの絶対王政に登場する人物とその業績に関する文として、正しいモノを1つ選びなさい。
①アンリ4世時代、ナントの王令を廃止し、ユグノー戦争を終わらせた。
②フランソワ1世時代、フロンドの乱を鎮圧し、絶対王政の基盤を完成させた。
③蔵相テュルゴーは、ルイ14世の蔵相として、重商主義による財政改革を行った。
④宰相リシュリューはルイ13世の宰相として、ドイツ三十年戦争にも介入した。
- ⑥ 三十年戦争に関する文として正しいモノを1つ選びなさい。
①ネーデルラントにおける新教徒の反乱をきっかけにして始まった。
②フランスは旧教国であったが、三十年戦争に際し、反ハプスブルクの立場をとった。
③スウェーデンのカール12世がプロテスタント側について、ウォレンシュタインと戦った。
④ウェストファリア条約の結果、ドイツが国家統一に向けて第一歩を踏み出した。
- ⑦ フリードリヒ2世の業績として、最も関係の薄いものを1つ選びなさい。
①ホーエンツォレルン家 ②“朕は国家なり” ③ヴォルテール ④啓蒙専制君主 ⑤巨人軍
- ⑧ マリア=テレジアの業績として、正しいモノを1つ選びなさい。
①スペイン継承戦争のために宿敵フランスと結んだ。 ②プロイセンのフリードリヒ2世とはライバルだった。
③ズデーテン地方奪回のため、プロイセンと戦った。 ④子フランツ2世は、啓蒙専制君主で内政改革を行った。
- ⑨ 北方戦争に関して述べた次の文のうち、正しいものを選べ。
①スウェーデンはバルト海の覇権を失った。 ②エカチェリーナ2世の時代に起こった。
③ロシアはトルコを破って、黒海へ進出した。 ④ペテルブルクからモスクワに遷都された。
- ⑩ 周辺諸国のなかでポーランド分割に参加しなかった国を選べ。
①ロシア ②オスマン帝国 ③オーストリア ④プロイセン

